

大阪・関西万博に向けた香川県の取組み方針

■大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)の概要

テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
期間	2025.4.13(日)~10.13(月) 184日間
会場	夢洲(ゆめしま)(大阪市此花区)
公式参加表明	153か国・地域、8国際機関(R5.3現在)
来場者数(想定)	約2,820万人(うちインバウンド 約350万人)
経済波及効果(試算)	約2兆円



■本県の取組みのねらい

2025年に県内で実施するイベント
 ・瀬戸内国際芸術祭2025の開催、
 ・あなぶきアリーナ香川(香川県立アリーナ)の開業
 ・その他、既存事業・イベント等
 との相乗効果によって、**本県への来訪促進や、
 交流人口・関係人口の拡大による持続的な地域の活性化**を目指す。



提供:2025年日本国際博覧会協会

■取組みの方向性

次の2点に力点を置き、大阪・関西万博の会期前・会期中に様々な取組みを展開。

- ① **本県の魅力や強みなどを万博会場内外でアピールする「情報発信」と、**
- ② **インバウンドを含めた誘客促進や交流イベントの開催などによる「交流拡大」**

加えて、本県の課題解決に向けた取組みを強力かつ効果的に進め、
万博を契機とした本県の未来につながるレガシーを創出。



① 情報発信の取組例

自治体催事への出展<会場内>

香川県の魅力(食や伝統文化、瀬戸内海の多島美、アート・建築、次回瀬戸内国際芸術祭など)を、古・現代・未来の本県を体感できる演出を施すなどした展示や実演、ワークショップ、飲食、物販などを通じて、国内外からの来場者に向けてPR

テーマウィークへの出展<会場内>

万博協会から示された8テーマのうちの「地球の未来と生物多様性ウィーク」において、香川県の発展と豊かで美しい自然や瀬戸内海との共生に係る課題とその解決に向けた本県の取組みについて、展示や体験等を通じて発信

SNS等を活用した情報発信<会場外>

- ◇「バーチャル万博」を活用した情報発信
- ◇万博来場者に向けたSNSやHP、Web広告、インフルエンサー等を活用した香川県観光に関する情報発信
- ◇国内メディアに対するパブリシティ活動とJNTO等と連携した情報発信
- ◇県内飲食店と連携した「かがわの食」の魅力発信

② 交流拡大の取組例

インバウンドを含む観光誘客の促進

- ◇滞在型観光を推進する持続可能なコンテンツの造成・販売
- ◇旅行会社や他県、国内航空会社、広域DMOと連携し、万博会場からの来訪を促す旅行商品の造成・販売、誘客プロモーション活動の実施
- ◇万博会場近辺の交通機関や観光施設等での観光PRキャンペーンの実施
- ◇MICEの誘致

県産品の販路拡大<大阪市内等>

- ◇百貨店やスーパー等での県産品の宣伝・販売促進
- ◇ホテルやレストランでの県産食材を使用した「香川フェア」の開催
- ◇さぬき讃シリーズやオリーブ畜水産物等ブランド製品の認知度向上と販路拡大
- ◇地場産品、伝統的工芸品の認知度向上と販路拡大

万博関連イベントの実施<県内>

- ◇万博会期に合わせた県内での既存イベントの実施
- ◇県内観光地での地場産品の魅力発信及び販路拡大
- ◇県内での県産品・食イベントの開催

交通アクセス対策

- ◇高速バスの会場への乗入れ等による来場者等の利便性の向上
- ◇観光客等への会場と本県との交通手段に関する情報提供

受入環境の向上

- ◇インバウンド向け多言語化の推進
- ◇観光客の満足度向上のためのガイドの養成・確保
- ◇観光施設等におけるトイレ洋式化の整備
- ◇キャッシュレス化の推進

機運醸成等

- ◇万博アクションプラン(各省庁等が実施する事業)の活用の検討
- ◇県民向け情報発信
- ◇学校で万博を題材にSDGsを学ぶ「教育プログラム」の活用
- ◇万博協会等との連携事業の実施

■今後の進め方

9月上旬に「香川県大阪・関西万博推進協議会」(県、市町、経済・観光団体、交通機関、大学、金融機関で構成)を発足。

万博の開催効果を将来に向けて最大限享受できるよう、県内関係者が相互の取組みに係る情報や計画を共有し、連携を図るため、県内の取組みをとりまとめた「**香川県版アクションプラン(実施計画)**」を10月頃を目途に策定。